

周波数逼迫対策のための技術試験事務・平成19年度新規案件事前評価

担当課	案件名	実施期間	評価会でのコメント	評価点
移動課	マイクロ波帯を用いた通信用途のUWB無線システムの高度化に向けた調査検討	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要なテーマであり、確実に実施してほしい。</li> <li>早急に実施することが必要な調査検討である。</li> <li>与干渉対策のための実効性の高い技術基準の策定を期待する。</li> <li>実施にあたっては実環境に即したシステムで評価を行うこと。</li> </ul>	4.3
移動課	ミリ波帯を用いたWPANシステムの周波数有効利用技術	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>早急に実施することが必要な調査検討である。</li> <li>IEEEの場で検討を推進することは意義がある。</li> <li>無線LAN等との切り分けを明確にすること。</li> <li>端末への負荷を考慮し、過剰な機能を持たせない等の配慮も必要。</li> </ul>	3.9
移動課	400MHz帯以下における特定小電力無線システムの高度利用技術	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術試験事務として実施項目をより精査し、有用な技術基準策定につなげること。</li> <li>具体的なニーズを十分把握した上で実施すること。</li> <li>想定するアプリを予め明確にした上で技術検討を行うこと。</li> </ul>	3.7
移動課	ミリ波帯を用いたレーダーシステムの高分解能化技術	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の高齢化社会に向けて有用なシステムであり、必要性は高い。</li> <li>既存レーダーとの差異(帯域、分解能、応用範囲)を明確にした上で、性能の改善等に向けた取組みを行うことを期待。</li> <li>達成目標を数値的に明示すること。</li> <li>装置の低廉化にも考慮しつつ、検討を進めること。</li> </ul>	4.0
基幹課	広帯域無線アクセス(BWA: Broadband Wireless Access)の高度利用技術	H18～20	<ul style="list-style-type: none"> <li>BWAの早期導入に向けて、早急な調査検討が必要である。</li> <li>H18実施のシミュレーション結果も踏まえ、予め、実フィールド試験の目的、達成目標等を具体的かつ定量的に設定することが必要。</li> <li>実施周波数帯を明記にすること。</li> <li>従来の無線中継での干渉対策との違いを明確にすること。</li> </ul>	4.0
基幹課	マイクロ波帯の固定通信システムの周波数有効利用技術の調査検討	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>周波数移行対策としての必要性は高く、早急に調査検討を行うべきである。</li> <li>移行先の周波数帯で新たな技術基準の策定が必要である理由をより分かり易く説明する必要がある。</li> </ul>	3.8
基幹課	公共・公益分野における移動無線システムのブロードバンド化等に関する調査検討	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術検討内容は妥当。ただし、低遅延化はアプリに合わせて適切な設定を行うべき。</li> <li>VHF/UHF帯の有効利用として、公共・公益分野の移動無線のブロードバンド化等を検討することは重要。</li> <li>ただし、技術検討に先立ち、ユーザーニーズの把握を含め(総務省がイニシアティブを取って)実用化に向けて明確なシナリオ作りをすることが必要。</li> </ul>	4.3
衛移課	船上地球局(ESV)と他業務の無線局との周波数共用技術	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸に近いところで使える魅力は小さくない。</li> <li>海上通信のブロードバンド化の推進に向けて、早急に調査検討を進めるべきである。</li> <li>必要な技術項目が何であるかをより具体化する必要がある。</li> <li>伝送レート等、具体的な数値が記載されていれば効果がよりアピールしやすい。</li> </ul>	4.0
衛移課	周波数有効利用のための海上無線アドホックネットワーク技術の調査検討	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>基地局等のインフラ設置が困難な海上において、アドホックネットワーク技術は有効。</li> <li>技術的な新規性はないが、既存システムの有効活用を目指した良い提案である。</li> <li>船舶数に依存した技術であり、有効性について十分検証すること。また、ニーズ把握に努めること。</li> </ul>	4.0
衛移課	航空機内における携帯電話等の利用に関する調査検討	H19～20	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空機内での携帯電話利用に対するニーズは非常に高い。</li> <li>欧米の航空会社の導入時期を踏まえると、早急な調査検討が必要である。</li> <li>航空機の安全を第一に考慮した技術基準の策定が求められる。</li> </ul>	4.2
放技課	マイクロ波帯における放送事業用無線局の高密度割当てに係る調査検討	H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4世代携帯電話の導入に向けて、速やかな移行ができるよう実施が必要。</li> <li>1年間で着実に実施できるように、十分な検討を行い、円滑な実施をお願いしたい。</li> </ul>	4.1